



北海道現地試験レポート 第2弾

北海道で千代田エースの小豆への追肥試験をレポート
十勝産小豆の安定的な高収量の実現に役立っています

今回の千代田NEWSでは、北海道日紅(株)帯広支店さんが2021年に行った試験事例をご紹介します
収益性の高い作物の安定的な収量増加のために、千代田化成を追肥でご検討ください

《耕種概要》

- ①場所:音更町 ②土壌型:黒土 ③前作:ビート
- ④試験作物・品種:小豆(エリモ167) ⑤播種日:5月26日

試験の目的:追肥における千代田化成と硝酸カルシウムの収量差を確認し、
安定的に高収量を実現する方法を検討する

施肥方法	商品名	施肥日	施肥量	N	P	K
元肥	BBS 6 6 0 Zn	5/26	40kg	6	26	10
追肥	慣行区 硝酸カルシウム	7/21	20kg	15		
	試験区 千代田A550	7/21	20kg	15	15	10

※開花直前に追肥を実施

※ 北海道の小豆栽培

- ①播種(5月中旬～6月上旬)、②出芽(5月下旬～6月中旬)、③中耕・除草(6月中旬～7月中旬まで10日おきに2～3回程度)、④7月下旬～8月下旬(開花)、⑤病害虫防除(開花期～成熟期の約2ヶ月弱)、⑥収穫(9～10月)



(編集:北海道営業部 黒田)

◎ 圃場風景



◎ 収穫調査結果



◎ 調査結果:茎長・莢数

	試験区	慣行区	対慣行区比
茎長平均(cm)	53.6	51.7	103.8%
稔実莢数総数	2455.0	2073.0	118.4%
不稔実莢数総数	55.0	82.0	67.0%
平均稔実莢数(ヶ)	25.3	25.9	97.7%
平均不稔莢数(ヶ)	1.7	1.8	94.3%

◎ 調査結果:子実重・単収

	試験区	慣行区	対慣行区比
総子実重(g)	2188	1789	122.3%
百粒重(g)	13.2	13.4	98.5%
反収(kg)	425.0	347.5	122.3%
〃(俵)	7.1	5.8	122.3%

◎ 10aあたり収入試算 (試験結果より試算 2021年時点)

	試験区	慣行区
追肥費用(反当)	3,300円	2,500円
収量(反当)	7.1俵	5.8俵
収入(反当)	124,500円	101,900円

反当1俵以上増収し22,600円収入増加!

◎ 試験を終えて

担当営業の声
千代田(3要素)を追肥することで莢数(花)子実重が大きく増えて、莢落ちが少なくなった。収量上のロスである不稔莢も減ったので、反当収量が1俵以上増える結果になりました。

編集担当より
北海道日紅(株)帯広支店様では小豆への千代田エース追肥試験を4年連続で行っていただきました。どれも慣行区比120%の結果が出ており、千代田化成の追肥の効果に改めて自信を持つことが出来ました。